



前号は大反響！
よく釣れると評判のシンプルフライ
「クロスオーストリッチ」

●クロスオーストリッチとは、タイイングや釣りのやり過ぎで手荒れ（KTPP：88号「マザキワールド」12）参照をこじらせた島崎憲司郎さんが、なるべく指先に負担が掛からない自分用のフライとし



指先のひび割れが再発してまだ包帯中の島崎さんが巻いてくれたクロスオーストリッチ・ライトジーンジャー#14（TMC108SP-BL）。前号の作例は全てオリブ系だったので、今回は違う色にしてもらった（カラー写真は49頁）。「1本のオーストリッチハールで手早く作れるのがミソでね。コストがどうこうより遊びとして面白い。しかもよく釣れるから、してやったり。感も大きいですよ。ボディだけでも充分釣れますけど、マラブーやチカブーや各種フェザーのウエブなどでテイルやウイングなどを付けたりハックルを巻いたり様々なバリエーションができるはずですよ。色々遊んでみてください」とのこと。

て作った一連のシンプルフライの一つである。今年の1月に取材を兼ねて赤城山麓の管理釣り場アングラーズエリアH.O.K.に向い出した際に、ガイドも凍る寒風の中で矢継ぎ早に羽舟竿をしなせる異常なまでの威力をまざまざと見てしまったことが、編集部とこのフライとの出会いだっただけだ。

●前号でクロスオーストリッチを紹介したところ、各方面から予想以上の反響があり、誌面に登場したオリブ色のオーストリッチハールとTMC108SP-BL#16がフライショップの店頭から消えたとの声もあるほどだ。今どき大したことである。その後も編集部はしつこくこのウルトラ・シンプルフライを追いかけて、各地の釣り人によるフィールドテストの結果の一部も今号特集にまとめてある。

●今回の桐生での取材では、島崎さんのタイイング方法と、コパーワイヤーをボビンで快適に扱うためのチューニングなども詳しく教わってきた。雑談しながらササッと巻いてもらった簡単な応用例も掲載、どれも明日の釣りにすぐ使える中味の濃いお役立ち情報だ。

（編集部）

以下は島崎さんの話。――

ブサイクなフライですよ。どん底状態のころに作ったやつですからね。傷が絶えない指先でも何とか巻けてしかも良く釣れるフライということ、最初に手を付けたのはキラバクだったんです。

キラバクっていうとすぐ例のチャドウィックス477番が話題になるわけですけど、あのフライがよく釣れるのは、そのオタカラ毛糸が水を含んだ際の妙なグレーもさることながら、むしろフランク・ソーヤーのお家芸のワイヤーワークとヤーン素材をフックシャンクに複数層巻き重ねただけのミニマルな構成にあるのではないかと。僕は前々から思っていたので、以前発作的に山ほど買い込んだままデッドストックになっていた極細のモヘア…キラバクには少し細いんですが…の中から良さそうな色を試してみたんです。月並みですけど、オリブ、ブラウン、ブラック、タン、クリーム、グレー、イエロー、オレンジ、それにチャートなどの釣れスジの色をね。

そしたら、思った通りというか予想以上に釣れた。まあこんなことはソーヤーもとつとくに実験済みだし、色々や

り倒した上で「チャドの477が最高」と結論しているわけですけどね。今となっては我々下々には入手不可能だし…万一手に入っても使えないだろうネ、もったいなくて。額に入れて飾っておいたりして（笑）。骨董市で買った手つむぎの麻ヒモでもやってみたいもしたっけな。麻ヒモのスカッドパターンなんて昔からありますけどね。エド・コックのミッジの本にも出てますし。

そんなことをやっているうちに、秋から冬になるにつれて空気が乾燥するせいか指の具合が日に日に酷くなってきたんです。当時の指先を日々接写した写真を見るととてもタイイングするどころじゃないわけですけど、人間そうなる余計やりたくなるのが人情ですね。でも普通なら簡単に出来ることが出来ない。べらぼうにやりつらい。また毛糸のようなザラザラした長モノは傷口に擦れて痛くてね。

何か他にないかと思っただけのへんを見渡すと、オーストリッチハールが目に見えたわけですよ。たまたまね。「あれなら痛くないかも…」と1本取ってついキラバク式にやろうとしたら、とてもじゃないけど長さが足りないわけ。キラバクはシャンクを一往復半

行ったり来たりさせて3層重ねますからね。それじゃあボディ後端でセットして一往復でもいいやと手抜きしたのが実はこのフライの原型です。それでも構造的にクロスはしているからクロスオーストリッチ。

…でもネ、名前付けちゃった後でこんなこと言うのも何ですが、色々試してみると別に往復させなくてもいいみたいネ。要はフリーをフックシャンクになるべく垂直に立ててピッシリ巻いてあればOKです（笑）。

ざっくり言えばフライタイイングってのは結果オーライの世界ですから。それにフライに限らずモノの名前の由来なんてこの程度のもんですヨ。軽く流してクダサイ。後で巻いてみますが、今日始めた人でも即出来る超簡単なフライですよ。まじめな話、これが巻けなかつたらやめた方がいいかも（笑）。



クロスオーストリッチはタイイング初体験のためのフライにも適している。生まれて初めてバイスに向かう6歳児は難なく巻いたクロスオーストリッチ#18でヤマベを釣った。（島崎さんによると釣りの初体験はドライフライの方が良いとのこと。）

僕の巻き方の要点は「アイ側からベンド側に巻いたハールボディをボディ後端で3〜4巻きして固定した後、そのワイヤーなりスレッドなりをボディの隙間にリピング状にめり込ませながらヘッド側に移動」することかな。これだとハールのストークをクロスラップで補強できるので構造的に強いです。それに、この方法だと包帯した指でも何とか巻ける（笑）。

丈夫にするということは何本かのハールをワイヤーまたはスレッドにより付けて巻く定番の手法は、このフライの場合あえてやってません。もちろんそれでも釣れるはずですが、水中でのフリーのうねりや独特の透明感が多少なりとも落ちてしまうような気がして…。

最初に巻いたクロスオーストリッチを水に放り込んで下から見た時はびっくりしましたよ。わずかな水の揺らぎにもそよぐ柔らかなフリーとゼリーのよう滑らかな透け感！「これ絶対釣れるぞ」と直感しました。

翌日、近所のバンブーロッドビルダーの中村羽舟さんを誘って早速釣りに使ってみたら、いやはや釣れるの何の。しかも一匹釣ると加速度的に次々に釣

れ続ける。なおかつフライにスレにくい。それに、ピックアップする時の水切れがとても良く、気持ち良くキャストしやすいんです。水が切れるとフリーがベタッと寝てしまっただけで、まるで猫を水に漬けて引き上げたみたいなのミジメな状態（笑）になるんですけど、着水するやいなやスツと水を含んで水中花のようにフワッと開く。これじゃ釣れない方が不思議ですよ。

でも、フライというのは生き餌ではないので、テキトーに放り込めば必ず入れ食いというわけではないですよ。ロッド十ライオンリーダー十ティベット十フライというシステム一式をうまく使って先方に食わすという一種の罠（ワナ）なわけですね、フライフィッシングっていう釣りは。

だから、当たり前の話ですが、その状況に応じたワナの仕掛け方が巧みな人ほどフライが活きる。逆にそのあたりが全然駄目だったりすると、どんな上等のフライを使っても不発に終わりがかねない。このへんがフライフィッシングのコワさであり、また逆に醍醐味でもあるわけですよ（笑）。

スレッドの代わりにコパーワイヤーを用いるソーヤーの方法は、フックの

下巻きにワイヤーを巻き重ねることによってウエイトの調整も出来る優れた手法なんですけど、傷だらけの指先で細いワイヤーをじかに持ってタイイングするなんてのは実際恐ろしいことですね。まあ皆さんのような健康な指先なら何でもない仕事なんですよ（笑）。

で、前にもこれやってボツにしたんですけど、ボビンにワイヤーをセットして再びやってみたんです。そしたら案の定プチプチ切れてしまっただけ。金属線は引張りや摩擦には強いんですがエッジ状の部分に力が集中すると脆いんですよ。実際、8/0スレッドよりあっさり切れてしまっただけ。

何とか工夫はないものかと考えたのが、シユリンクチューブ（熱収縮チューブ）を活用したチューニングなんです。これは便利です。ぜひ皆さんも作ってみてください。フェザントイルニンフやグレーグースやボウタイバザーなどを巻くにも重宝しますから。ソーヤーが生きていたら送ってあげたいぐらいです（笑）。ウエイト用の各種線材類にも使えるし。

もしかしたら、クロスオーストリッチよりもこのワイヤーボビンの方がお値打ちかもしれません。

新装版 水生昆虫アルバム

A FLY FISHER'S VIEW

特別付録 ◇ シマザキ・ワールド 11

島崎憲司郎

Photographed & Illustrated by the Author
Kenjiro Shimazaki

FURAI NO ZASSHI

現代の古典にして大ベストセラー!

新装版水生昆虫アルバム A FLY FISHER'S VIEW 島崎憲司郎 A4変形版 288頁 税込6,600円 ISBN4-939003-15-9 フライの雑誌社刊
<http://www.furainozasshi.com/>

クロスオーストリッチを巡って

各地からの報告

前号での発表以降、全国の釣り人がクロスオーストリッチをそれぞれの釣り場で使って、その効果を知り始めている。管理釣り場や止水だけで効くフライではない。魚種も状況も様々だがよく効いている。やはり「新しいスタンダードフライ」なのだ。



①



②



③



④



⑤

⑥

いずれもクロスオーストリッチでの釣果。①7月の道東の川で江東区H氏は浅いプールに定位していた大物をサイトフィッシングで釣り上げた。②道東某湖の流れ込みで編集部が釣ったアメマス。テイル付き#12で。③編集部がライズ狙いで釣ったニジマス。喜んでます。④6歳児が自分で巻いたクロスオーストリッチ#18で釣った浅川ヤマメ。⑤クロスオーストリッチをモンカゲのハッチにマッチさせて釣ったニジマス。(13頁)⑥鹿児島の中馬達雄さんの仲間は8月に入ってからエビを意識した夜釣りです。#10クロスオーストリッチを使い、30cm級のセイゴを入れ食いさせている。